

会議の概要

令和元年度 第8回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和2年1月14日（火）18:30～20:30

場 所：改善センター2階 農事研修室・農事相談室

（進行 指導主事 斎藤一範）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 大山 明美）

みなさん、こんばんは。これから第8回コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- みなさん、明けましておめでとうございます。1月も早くも半ばとなってしまいましたが…。CS委員会も今回で8回目で、2月の1回を残すだけとなりました。これまで大変お世話になりました。
- 今日の中身に「おおたま・オータム・フェスタ」のアンケート集計結果報告がある。後ほど担当者から説明があるが、5段階評価にすると真ん中の3の評価になってしまいがちなので、本アンケートは4段階評価にしてある。全体として肯定的な評価が91%ということで、本活動は意義があったと考えている。

先日、青山学院大学陸上部の原監督の話を聴く機会があった。「3割5分の人が賛成していれば大丈夫である。あと3割5分はどちらか分からない人たちなので、説得すればよい。残り（反対）は3割…」と話しておられた。おもしろい考えだとは思ったが、私は、少なくとも2/3の肯定的な意見（賛成）が必要だと思っている。

- 昨日の1月13日は成人の日だった。本村は8月開催だが、成人式を12日（日）に実施する市町村が多かったが、今年の県内の新成人（1999年生まれ）は17,700人で、最も少なかった時の14,500人より少し増えているが、全人口に占める割合は0.97%である。多かった時の新成人は33,000人（1970年）で、今の2倍だったことを考えると、いかに少子高齢化が進んでいるのかを実感させられた。

テレビの報道で注目させられたのが、双葉郡8町村で行われた成人式のインタビューだった。「久しぶりに会って感動した。」「ふるさとの復興に向かって、自分ができることをしていきたい。」と述べる若者がおり感心した。

- 平成29年12月に文科省で「地域と共にある学校づくりフォーラム」にパネラーとして参加した。そこでのテーマは、「30年後の日本はどんなふうになっているのか。CSの役割は何か。」であった。パネラーは4人だったが、最後に司会者から「福島復興に向けて大変な状況であるが、一言あるか。」に応じて話したことを紹介したい。

復興ソング「花は咲く」をいろんな集まりで聴いてはいるが、お年寄りが「ふるさと」をよく歌って、涙を流している姿が印象的だという話をさせてもらった。「志（こころざし）を果たして

いつの日か帰らん」という歌詞があるが、「志を果たしにいつの日か帰らん」と考えると…。

今後も「志を果たしに…」という気持ちで取り組み、子どもたちを育てていきたいと思っている。今年もよろしくお願いいたします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

(コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥)

本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は第8回ということで、「コミュニティ広場」を含めると、残りあと2回となりました。

「おおたまコミュニティ広場」と名称が変わり、子どもたち参加型の教育フォーラムを行うことになった。今日は、第2部フリートークでどのような話し合いに持っていったらいいのかを中心に十分な話し合いをしていければと思う。本日の中身も多く、スケジュールも細かく設定されているので、時間を有効に使いながらスムーズで速やかに進めていただきたい。よろしくお願いします。

4 諸連絡

(指導主事 斎藤 一範)

本日の日程・内容について

○ 本日の重要協議題

・第1回おおたまコミュニティ広場

・第3回おおたま・オータム・フェスタについて(反省)

・今年度コミュニティ・スクール委員会活動について(反省)

協議の際、初めは全体会で行い、その後各幼稚園・小学校・中学校別の班で進める。

(教育長退席)

5 協議

(座長 CS会長 伊藤 和弥)

(1) 第1回おおたまコミュニティ広場(第11回教育フォーラム)最終打合せ

① 教育フォーラム(発表・フリートーク)進行表 確認

② 当日の運営の流れ、役割分担、参加状況等 確認

説明(指導主事 斎藤一範)

ア 内容・方法の説明

○ 「発表の紹介」を追加

①に「各学校代表児童・生徒1～2名より、発表内容の紹介をする」を付け加えた。

終了後、小学校の発表からスタートするような形にした。

○ 発表の順番を玉井小、大山小、大玉中の順とした。玉井小はポスターセッションであり、大山小、大玉中はパワーポイントによるプレゼンテーションであるため。

○ 集合時刻は8時(児童・生徒のリハーサルの時間<当日のみ。8時～8時半>を設けたため)。CS委員の集合時刻も8時までとする。

○ 係分担…事前の打合せが必要なのは、受付、来賓対応、駐車場。教育委員会の担当者も入っている。当日打合せは行うが、不安な場合は、必要に応じて今日の会議終了後相談してほしい。当日の参加有無により変更の可能性あり。

○ 会場図について…変えた所は、左側に村長、議長、県北教育事務所長等の席を設けたこと。

○ 進行表について



- ・1部についてはそのまま。特に検討してほしいのは第2部についてである。
- ・CS委員に各グループの司会をしていただく予定である。子どもたちが各グループに入ることになるので、子どもの発表を生かすよう進行していただきたい。
- ・付箋（青：できることややってみいたいこと、赤：課題や必要なもの）を各自に記入してもらう時間を経て話し合う流れであるが、この方法が話し合いを活性化させることに繋がるのかどうかご意見をいただきたい。
- ・話し合いが早めに終わった場合は、話し合った内容を振り返ったり、大玉村の魅力等をフリートークしたりして、様々な立場の方と話し合い、考えを交流できるようにする。

【 質 疑 】

くもう一度読む時間を確保（5分間程度）＞

- 児童・生徒発表内容の紹介を追加した目的を聞かせて欲しい。
 - 相双地区の「ふるさと創造学サミット」に参加したが、全体会の際に小・中学生、高校生が自分たちの発表内容をPRしている場面があり良かったので、コミュニティ広場でも取り入れるとおもしろいのではないかと考えた。
- 集合時刻が10分早まったことについて
 - 子どもたちが8時からリハーサルをするとすると、10分くらい前に来るのではないかと思われる。そのことを含みおきいただきたい。
- 係分担について…難しい内容の係はなく、当日の事前打合せで十分と思われるが、不安な場合には斎藤指導主事に聞いていただきたい。
 - 本日の要項に、CS委員全員の名前が入っているわけではないが、皆さんには、何かしらお手伝いをお願いしたいと考えている。
- 第1部「小・中学生の発表」進行表について確認したいことはないか。
 - 特になし
- 第2部「フリートーク」の際の留意点…付箋の利用について
 - 付箋は、使った方が話しやすい。
 - 最初はなかなか言葉がでないが、いったん意見が出だすと話が盛り上がり時間が不足してしまう。付箋を使用する場合には、時間がなくならないようにするためにも、文章ではなくキーワード(言葉)のみ記入し、実際に説明してもらう時に詳しく話してもらうようにする。
 - 視覚的に共有しやすいのであった方がよい。(単語で記入する)
 - 今回は子どもたちが入るが、子どもには付箋の使用は難しいので、記入については無理をさせないようにする。子どもたちには、思いついたら話せるよう司会（CS委員）で配慮するようにお願いしたい。
 - 各グループの司会者と記録（発表）者を分けるようにする。(司会者はCS委員。事務局で、名簿に割り振っておく。)
 - 司会者としては、まとめるのが難しい（特に話し合いが早く進み、時間が余った場合）。今回のテーマ（題材）に適したワード集があるとよい。
 - 模造紙の上で、付箋に書かれた意見をグループ分けしながら協議を進める。
 - 代表グループの発表の際には、模造紙を見せながら発表する。
- 「大玉村の未来を考えて～」というテーマであるが、近未来ということでのよいのか。(50年後先等ということではなく)
 - 近未来で良い。子どもたちの発表を受けてということなので、あまり難しく考えないでいただきたい。
- 小グループに、子どもたちはどのように入るのか。
 - 各グループに小学生1名、中学生1名。グループに入る子の発表内容が中心になることがあるかもしれないが、それでもよい。

- 出席申し込みについて（現在のところ2名）
 - 1月は各種団体で集まりが多い月である。そういう機会を生かして、声かけ（PR）をするようにお願いしたい。PTAについては、締め切り日の1月16日（木）の状況を見て、それ以降各校に連絡をする。多少期限を過ぎても構わない。
 - PRのためにチラシを増刷する。

（2）おおたま・オータム・フェスタアンケート結果についての説明

＊資料に基づき説明

① 質問項目について

「今回の活動を振り返って、活動内容は良かったと思いますか。」

- ・ 全体の71.5%が「そう思う」（「ややそう思う」24.7%を加えると96.2%）と答えていることから、活動内容は適切であったと思われる。
- ・ 準備段階から教職員の負担が大きいことから、業務分担の見直し、実施日程の検討等が必要と思われる。（場合によっては、準備が少ない手軽にできる活動内容に変更）

「今回の活動では、他校（園）やたくさんの地域の方々に協力していただきました。この活動は有意義だったと思いますか。」

- ・ 全体の71.1%が「そう思う」（「ややそう思う」22.5%を加えると93.6%）と答えている。第3回目を迎えて、本村らしい“人と人とのつながり（ふれ合い）を大切にした行事”になっていると捉えられる。
- ・ 特にボランティアの方の支持率が高い傾向にある。

「今回の活動を通して、大玉村への理解や愛着が深まったと思いますか。」

- ・ 全体の56.2%が「そう思う」（「ややそう思う」31.7%を加えると87.9%）と答えている。活動内容によってはふるさとの豊かな自然を感じ取れるものもあったが、交流が主のものについては村への理解や愛着まではいかないものもあったと思われる。

（3）令和元年度コミュニティ・スクール委員会活動についての説明

＊資料に基づき説明

① 令和元年度の重点について

- ・ 令和元年度は「地域学校協働本部事業（地域学校協働活動）」との関連を明らかにしながら、以下の項目を重点とした。

- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価（1～2月）を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルがより有効に機能するようにする。
- 第11回目となる教育フォーラムは、保護者、村民の方々が年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。
 なお、役員会が概要を企画し、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう組織・運営方法を工夫する。
- 学校が主体となって企画するおおたま・オータム・フェスタ（第3回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。

② 令和元年度おおたま学園コミュニティ・スクール委員会活動

(4) おおたま・オータム・フェスタとコミュニティ・スクール委員会について

- ① おおたま・オータム・フェスタの運営についての熟議
(今年度の活動を振り返って／次年度の活動を見据えて)
- ② コミュニティ・スクール委員会の運営についての熟議
(今年度の活動を振り返って／次年度の活動を見据えて)

※ 各校・園別の班ごとに熟議を進める。

③ 全体共有

<大玉中班>

- ① 過去の課題を踏まえて、今年度組み合わせ・内容を変えたということを考えれば、再度変更すると多忙化に繋がってしまう。内容を検討するのは必要だが、今年度行ったことをベースにして、次年度も行った方が良いという話になった。

時期に関しては、実施日が今年度より約1週間後ろにずれている。中体連新人戦終了後、1週間経ってからオータム・フェスタになるので、少し余裕がある。

- ② 9回のうち、学校に関するものが3回、1回目と9回目が伝達が主であるので実質的には残り4回しかない。それもととても大切な内容なので、次年度以降も9回実施した方がいい。ただ、熟議4回の中で、行事に関して話し合うことが多いので、それ以外の協議題を設けて、学校が困っていることについて相談する機会が1回でもあればいいのではないかな。



<玉井小班>

- ① オータム・フェスタに関しては、結果として先生の負担が大きいという話が主だった。まるなげされた感がすごく大きかった。グループ編成も先生方が早いうちから行っていたので、CS委員会も年度始めにグループを分けて、行事の担当を最初から決めておいて、先生との関わりをもっと早めに進めていった方がいいのではないかな。学校が全部計画を立て、私たちがそれを確かめ、調整してもらって、その後CS委員が下見について行くという流れのような感じがしたので、もっと早くから関わると先生の意識も違ったり、CS委員も「できることがある」ということに早くから気づけるのではないかな。

内容は変えない方がいい。変えると、来年度また一からやり直すようになるし、そうすると、先生方もCS委員も大変になるので、引き継いでいけるような形にするため、ある程度固定していった方がよい。

- ② 回数的には多いとは言えない。どうしても欠かせない内容を含んでいるので、今年度と同様でよい。オータム・フェスタに関する事前打合せが少なく不安な面があったので、回数を減らすことによって、その機会をさらに減らすことになっていしまうので、このままでよい。

<大山小班>

- ① 日程が10月4日(日)で決まっているので、早めに各種団体に協力いただくような文書を出して、多くの方にお手伝いいただければ、若干ではあるが先生方の多忙化解消に繋がるのではないかと考えている。

内容については、変えてしまうと準備等大変になるので、同じような内容で継続して行った方がいいと思う。

- ② 本年度は、各校・園がテーブルで熟議する機会が前年度よりかなり多くなっていった（ＣＳ委員も満足して帰る回数が多い）。たくさん話せ、有意義な時間を過ごせているので、現状のまま進めていった方がいい。



<大山幼班>

- ① 今まで実施してきて、このままでいいが、マンネリ化にならないよう考えていかなければならない。子どもたちは、地域の方々とかたくさんの人とふれ合うことがなかなかない。オータム・フェスタは、子どもたちが老人クラブや地域の方々とふれ合い、そして、老人クラブの方々にとっても幼稚園の子どもたちと出会う貴重な機会（生きがい）となり、双方にとってよい行事になっていると思う。

- ② ＣＳ委員会は、回数は少し多いかなという話になった。内容を見て、合体できるものがあつたら、合体してまとめることもできるのではないかな。

第３回ＣＳ委員会で出張フォーラムについて話が出たが、現在、次年度の教育課程について準備している段階なので計画することは可能である。来年度の参観日にぶつけてみて、小さなまとまりの中のフォーラムで保護者同士の繋がりをつくり、そして大きなフォーラム（コミュニティ広場）に繋げていくことも良いのではないかなという話になった。

<玉井幼班>

- ① 子どもの発達段階があるので、内容（遊び等）を変えることも必要である。ただ、大枠は変えないで、内容を充実させていくようにしていきたい。
- ② ＣＳ委員会９回はやむを得ない回数ではないか。（３回のオープンスクールもあるので）熟議等、大山幼稚園と合同で行ってもいいのではないかなという意見もあった。行事のためのＣＳ委員会で終わらないようにしたい。

6 その他

（指導主事 斎藤 一範）

（１）各校・園主催の学校関係者評価について

- 玉井小… ２月５日（水） 玉井幼… １月２８日（火） ＊他は未定
- 次回のＣＳ委員会で、各校・園の評価結果について委員長に説明いただくようになる。

（２）アンケート「今年度の成果と課題」の提出について

- 提出は２月７日（金）までをお願いしたい。（電子メール、ＦＡＸ可）

（３）次回の予告

- 第９回ＣＳ委員会（最終） ２月２５日（火）１８：３０～
- コミュニティ広場の出欠報告について … 本日の帰りをお願いしたい。

7 閉会のことば

（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

長時間お疲れ様でした。これで第８回おおたま学園ＣＳ委員会を終わります。お疲れ様でした。